

2020年度 学校評価 わらべ幼稚園

I 経営の重点にかかわること 評価段階 (A:よくできている B:できている C:あまりできていない D:まったくできていない)

1 園教育・保育目標:やさしく・かしこく・たくましい子		自己評価	園関係者評価委員会から	
2 重点目標 ・仲間の中で成長し仲間を大切に する子 ・丈夫な体 を持つ子	園の教育目標を理解し目指す幼児の姿をイメージして、保育の計画を立てる	B	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍、工夫して子ども同士の関わりを大事にした保育ができています ・認定こども園として改めて本来の教育理念を目指してほしい ・2号児・3号児を含めた「わらべの保育」を目標をもって計画的に進めてほしい ・「季節の行事」が行われるか心配したが工夫してやってくれた
	<ul style="list-style-type: none"> *全職員で「わらべの保育」を理解をし、そこから保育へと繋げていけるよう話し合う機会を作ってきた。話し合いの中で職員に伝わりやすいように工夫した *年齢に合った保育目標を立てている *乳児保育をわらべの保育と結び付けていくように考えた *環境の変化、子どもの育ちの変化、時間の使い方など難しくなっている現状で保育について考え直していきたい *安全性・計画性を考えて保育した *子どもの姿を捉えて保育計画を立てた 		B	
	(園関係者評価を受けての改善) *職員会議など話し合いの場を多く設け、保育計画をしっかりと立てる *経験を基に学習しながら乳児保育の計画を立てていく *研修の日をしっかりと計画し研修内容を検討していく			
	子どもの発達や生活を見通して環境設定をしている	A	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭が広くなり、遊具や屋上で伸び伸び遊べる環境が良いと思う ・園舎が新しく、園庭も広がり、清潔感や子どもの安全面が確保できている ・遊びの場が広がって嬉しい ・子どもが遊びたい物が選択できるようになった
<ul style="list-style-type: none"> *園庭が広くなり子どもたちが意欲的に遊べる場にした *屋上にも遊べるスペースを工夫し環境を考えたい *子どもがイメージを持てるよう玩具の設定や遊びの中の環境を工夫した *生活の区切りを設け活用した。職員の配置の考慮、清潔な環境を心がけた *子ども様子をみながら友だちとの環境を作ってきた *遊びの中で安全性を考慮した 		A		
(園関係者評価を受けての改善策) *保育室の環境 工夫をもう少し考えていきたい *園庭が広くなり、遊具も新しくなったので安全性を確保する				
子ども一人一人をよく観察し子どもの思いやサインを受け止めて保育できている	A	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児、乳児とも担任同士で保育方針を話し合いより良い保育に繋げている ・子ども一人一人に合わせ、気が付いたことは声をかけ、言葉で表せないことはしっかり寄り添ってくれた ・子どもの表れで「もう少しこうしたほうが良い」とか「これができていない」など家庭に伝えて、家庭でも子どもとの関わりのヒントをくれると良い 	
<ul style="list-style-type: none"> *子どもの気になる部分が目につきやすいが、良い面を見つけ保護者に伝えるようにし子どもと寄り添うようにした 褒めて意欲や自信につなげるようにした *乳児の担任は幼児と違うので慣れるまで難しい面があった *子どもを把握し、子どもの声を捉え、担任同士で話し合い、保育につなげていった *乳児保育では一人ひとりの成長の違いや子どもの姿、成長を保育士たちが捉え保育した。特にスキンシップを多く持った *言葉で表せない部分を表現していることを見ていった 		A		
(園関係者評価を受けての改善策) *こどもたちに寄り添った保育を今後もしていく *子どもの気持ちをキャッチできる様子を見たり遊びを広げていく				

II 各領域にかかわること

大項目	中項目	評価指標	自己評価	園関係者評価委員会から	
こども園における教育及び保育	(1) 0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	一人一人の発達や経験を把握し理解した上でわくわくしながら園生活が過ごせるよう援助する	A	評価	・子どもが「これからの楽しみや楽しかったこと」を家庭で話してくれるので園の先生たちの考えや工夫が伝わってくる
		<ul style="list-style-type: none"> *子どもが興味を持った遊びを発展させ楽しんでいるか、単発で終わってしまうかなど見極めて工夫することが必要である *コロナ禍大変な状況であったが、子どもと一緒にたくさん笑いあえる保育を心掛けた *乳児は言葉が出始めた頃であるので、毎日言葉がけを大切にしたい *子どもたちがイメージを持つよう活動を進めていった *褒めたり・励ましたり自信や意欲を持って活動したり遊んで次につながる配慮をした 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・「0歳から年長までの一貫してわらべの保育」を組み立てていることが伝わった ・こども園に移行して3年の経験を踏まえてこれからの保育を期待する ・コロナ禍で行事など減ったが、子どもの笑顔は変わらなかった ・環境や活動で子どものイメージが膨らんだ
		(園関係者評価を受けての改善) *乳児から幼児まで見通しをもって一人ひとりの発達に合わせ、教師も子どももワクワク感をもてる保育をしていきたい			
	(2) 1日の生活の連続性及びリズムの多様性への	スキンシップを取り、子どもに寄り添い、安心して穏やかな気持ちで生活できるよう援助する	A	評価	・マスク生活の中で子どもの表情の読み取りや先生からの声掛けも難しかったと思う。これからも対策を取り子どもに寄り添って欲しい
		<ul style="list-style-type: none"> *こどもの思いに寄り添い、安心して1日を過ごせるよう関わったスキンシップに心がけた *乳児は生活が中心となるので、安心して過ごせるよう心掛けた *家庭での様子や心の状態、登園時の姿を読み取り抱きしめたり、笑顔で接したりするよう心掛けた。 *マスク姿で子どもと接するのは心苦しかった。 *乳児は保護者から離れ、不安や甘えたい気持ちを十分受け止めた 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・マスク対応については暑さなど考えて欲しい ・スキンシップの大切さを感じた1年であった
		(園関係者評価を受けての改善) *スキンシップを取り、子どもが安心感を持てる保育をしていく 褒めることを増やしていく			
	(3) 環境を通して行う教育及び	5感を通しやってみたいと思うような経験を広げていけるような環境を用意する	B	評価	・園で色々な体験ができていると思う
		<ul style="list-style-type: none"> *泥んこ遊び・ボディペイント・色水遊び・草すべり等ダイナミックに体を使っての遊びを職員や子どもに伝えていきたい *自然環境が変化した中でも自然と関われる取り組みをしたい *環境設定が難しかった *畑仕事を体験できている *季節や行事を保育として、今年は思うようにできず残念であった *乳児の喜ぶ曲をかけてきたが、もう少し乳児の楽曲を増やしたい 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・5感を通しての活動をやっているが、さらに工夫して欲しい ・コロナ禍、様々な変化で課題も多くなるが、色々な体験を保育に組み入れて欲しい ・園外保育もこの先取り入れて欲しい ・どろんこ遊びもたくさん取り入れて欲しい
		(園関係者評価を受けての改善) *室内でのほだし保育を充実させる。 砂場遊び、泥んこ遊び、水遊び、川遊び、園外保育をもっと取り組む			

2 安全管理・ 指導	(1) 事故防止 防災	災害・不審者・交通安全など様々な状況を想定し、園児に安全行動を身に着けさせる	B	評価	・避難訓練をして、防災について身に付けて欲しい ・子どもが小さいので繰り返し行い、職員のスキルアップをしたり、地域、企業にも協力を求めていくことも大事である ・避難場所として園を提供したり、連携をとっていくことも必要である ・子どもに分かり易く教えてくれていると思う
		＊年間計画で月1回訓練をし、行動を意識化している ＊保育者も真剣に取り組む ＊不審者訓練ではDVDをみたり色々な資料を用いて、子どもに意識化した ＊避難用品の確認、置き場所を徹底したい。乳児は避難服の準備ができた ＊園外保育では交通状況・歩きにくい道などより安全を要求され気を配ることが多かった ＊乳児の散歩は人数や月齢など配慮し、対策を考えながら行いたい		A	
(園関係者評価を受けての改善) ＊安全管理は重点課題である 教職員の共通理解をもち、訓練をしっかりと行う					
3 保健管理・ 指導	(1) 健康教育 の充実	基本的な生活習慣が身につく健康に過ごそうとする	A	評価	・1年でマスク生活に慣れたり、手洗いうがいのが上手になり習慣化されている ・感染予防をやってきて体調を崩さなくなった ・新しい生活様式が当たり前になってきた ・先生たちの消毒作業が大変だと思った
		＊手洗いうがい等生活習慣は子どもも身に付けてきた。家庭との協力が必要である。 ＊保健便り・食育便りを発行し保護者に関心を持ってもらうようにした ＊給食のシールド・手指の消毒・マスク着用など子どもたちはよく頑張っている ＊感染防止対策を日々頑張っている ＊手を出さずに見守ることも必要 ＊乳児も保育者が援助しながら手洗いができている。真似る力がある		A	
(園関係者評価を受けての改善) ＊個々に合わせた基本的な生活習慣を指導していく。 ＊家庭の協力も働きかける					
4 特別支援 教育	(1) 支援体制 づくりの 推進	個々の状況に合わせ支援計画を立て、全職員がかかわりを持ち援助しようとしている	B	評価	・気になる子が増える中、職員と子どもたち皆で作る集団で一人一人が育っていると思う ・教師間の情報伝達や連携が大切だと思う
		＊気になる子にはどう支援し、どこを伸ばすのか1年の支援シートを作り、職員間で共有することが必要だと思う ＊乳児としての0歳～2歳児の繋がりを重視したい ＊コロナ禍、保護者と相談も持ちにくく伝え方、受け取り方が難しかった ＊乳児は複数職員がいるがクラスの職員同士の共通理解ができた ＊かかわり方・支援の仕方について新人職員は学びたい		A	
(園関係者評価を受けての改善) ＊職員研修をして情報共有していく ＊保護者と話し合いを持ち理解してもらう					

5 組織運営	(1) 組織体制 の充実	<p>日常の保育や園行事について手紙、パネル、写真など利用して、保護者に説明や協力事項を伝え職員間で連携して教育保育を進めている</p>	A	評価	<ul style="list-style-type: none"> 相談事はノートでは伝えにくいですが、コロナ禍面接などでできず親も気を使っていた 今年度は大変だったと思うが、保護者への対応はお便りやホームページなどいろいろな手段を活用して欲しい 保護者に対しての発信をもう少し早くして欲しい ホームページの活用をもっと考えて欲しい
		<ul style="list-style-type: none"> *職員間での伝達事項は会議に参加できなかった職員に回覧で回すなど工夫が大切である *保育の様子などホームページの活用も必要である *子どもの姿をお便りで伝えているが、伝えきれないもどかしさがある *「どんな保育をしていくのか」給食職員も含めた全職員の共通理解が必要である *職員間の情報理解について手立てを考えたい *保護者には連絡ノートなど利用しているが、園に出向かない保護者には話ができないことがあった *コロナ禍ではあるが保護者に協力を求めたい部分もある *乳児は直接保護者と会えるので伝達・情報は伝えられている *コロナ感染拡大防止については職員間で共通理解している 		A	
		<p>(園関係者評価を受けての改善)</p> <p>* こども園の4年目に向け教職員の連携をとる * 保護者に保育の様子を知らせたり、お手伝いなどに参加してもらう</p>			
6 研修	(1) 研修 体制の 充実	<p>「わらべ独自の保育」どんな遊び・環境・子どもの成長への手立て具体的な共通理解を進めているか</p>	B	評価	<ul style="list-style-type: none"> 今年度はなかなか研修もできなかったと思う 「3歳までのわらべの教育」の底力を確立して、さらに6年間の教育・保育をまとめていってほしい 保育・感染対策・虐待・事故防止など様々な研修や知識の獲得をして欲しい
		<ul style="list-style-type: none"> *園内研修も行ってきたが、研修報告は作成していないので報告書は必要、今度の研修に生かしていきたい *今年度はコロナ禍で県外の研修や市内の研修・新任研修などリモートであったりしたが、給食職員も含め県外の研修に出ていくことは必要である *リーダー研修や専門研修もキャリアアップが必要である *乳児の研修を取り組みたい *1号児と2号児・3号児がいるこども園としての「わらべの保育」考えたい 		A	
		<p>(園関係者評価を受けての改善)</p> <p>* 研修・職員会議の時間を設け、わらべの保育について教職員間で話し合う</p>			
7 教育・保 育環境 整備	(1) 支教育・ 保育環境 の充実	<p>ごっこ遊びや子どもがイメージを豊かにする遊びの環境を工夫しているか</p>	B	評価	<ul style="list-style-type: none"> 工夫できるスペースはあると思います 子どもの主体性あるイメージを引き出す工夫を考えて欲しい おもちゃなど与えるだけでなく、子どもが自ら作る体験をしていることが良いと思う
		<ul style="list-style-type: none"> *現状の中でごっこ遊びができるよう工夫していく。スペースの確保など *環境設定をしながら子どものイメージを膨らませるよう努力している *乳児の好む玩具選びも必要である *壁面装飾や手作りおもちゃを作り新しい遊びを提供した *遊びの展開に保育士が工夫をしていきたい *ままごとコーナーを充実させたい 		A	
		<p>(園関係者評価を受けての改善)</p> <p>* 保育室の環境構成をしたり、子どもがイメージしたものを膨らませて保育をしていく</p>			

8 家庭との連携・協力	(1) 家庭教育への支援機能の充実	<p>子どもの発達や活動の様子を降園時や保護者面接・懇談会で伝えたりお便り・ボードなどで積極的に知らせている</p>	A	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で難しいこともあると思うが、人数制限などして懇談会等実施する意義がある ・園の行事や懇談会の中止など、家庭との連携が困難な1年であった ・方法を考えて家庭との連携を密にして欲しい ・動画の活用・写真などで子どもの生活を配信するのよ ・なかなか園に出向けない中、連絡帳での記録で園での生活などよく理解できた ・わらべ通信などで園の様子が伝わった
		<p>*コロナ禍で懇談会・行事等の中止などで園内の子どもの姿をみたり、感じたりする機会が減少したので「わらべ通信」を配信し子どもの姿を伝えられるようにした</p> <p>*乳児組は子どもの姿を具体的に伝えていった</p> <p>*連絡帳を細かく記入したいが、保育を重視すると記入との両立ができにくい</p> <p>*懇談会ができないので面接の機会を作った</p>		A	
<p>(園関係者評価を受けての改善)</p> <p>*連絡帳やお手紙、面接等で保護者に子どもの様子を伝える *ホームページ活用を考えていく</p>					
9 近隣の園との連携	(1) 近隣の園との連携の推進	<p>近隣の小中学校との連携を図り、交流、情報交換を進める</p>	B	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な地域でイベントや交流が中止となり残念であったが、今後は情報を集め参加できるものには参加するとよい
		<p>*コロナ禍 交流はできなかった</p> <p>*薫科中学の広いグラウンドに行かせてもらい遊ぶことができた</p>		B	
<p>(園関係者評価を受けての改善)</p> <p>*小中学校との交流を進めたり、地域の子育て支援会議での交流をしていきたい</p>					
10 地域との連携	(1) 信頼される園づくりの推進	<p>地域住民や施設等とのかかわりを大切にしながら、園だけではできない体験をする機会を持つようにする</p>	B	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・園外保育に出かけていくのは良い ・地域で子どもの声が聞こえてくるのは良いことです。そんな優しい地域にしていきたい ・今後も園外保育に出かけ地域との交流もして欲しい ・公園選びも工夫してほしい
		<p>*コロナ禍 園外の体験ができなかった</p> <p>*乳児はお散歩中ホームの方と挨拶を交わすことを積極的に行った</p> <p>散歩コースで出会う方は顔なじみになり魚などを見せてくれた</p> <p>*隣接したアパートに入居者がいるが全く顔を合わせず、騒音の話などもできない</p> <p>*散歩に出かけた公園にいる方などに積極的に声をかけた</p> <p>*コロナ禍で出会う方との声掛けも心配であった</p>		B	
<p>(園関係者評価を受けての改善)</p> <p>*デーサービスの参加・散歩での挨拶・わらべランドのお知らせなど地域に知らせていく</p>					

1 園から経営のまとめ（成果と課題）	園関係者評価委員会まとめ
<ul style="list-style-type: none"> *年少児の転入児が多かった *幼児1号児の新2号申請が多かった *満3歳児が5月で定員に達しそら組が12名になった。その後も満3歳児の問い合わせが多かった *0・1歳児の途中入園があった 0歳児は3月5人になった *新任保育教諭を3名採用した 次年度も募集していく *給食について乳児の移行食を担当、調理員が考えて実施してきた *保育教諭間の交流や研修会議の時間がなかなか取れないため工夫が必要（保育が優先になる） *コロナ禍いろいろな活動が制限されたが、子どもの成長を考え、工夫して保育した 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍大変な1年であった ・子どもたち一人ひとりの話をよく聞いてくれ、保護者に対しても相談に乗ってくれた ・自然と触れる遊びをもっと増やしてほしい ・他学年との交流もさらに進めて欲しい ・毎日喜んで登園する子どもを見るのが嬉しい ・先生も子どもたちもワクワクできるような保育をさらに進めて欲しい
<p>2 園関係者評価の意見を受けて（改善策）</p> <ul style="list-style-type: none"> *「わらべの保育」について教職員間で研修し、泥んこ遊び、園外保育・イメージを持った遊び・ごっこ遊び 行事・食育についてなど共通認識を持つ *子ども一人ひとりに寄り添い成長を認めながら、その子に必要な成長を進めていく *子どもも先生もワクワクするような保育をしていく *子どもの様子を保護者に伝える手段を工夫していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍、保護者に手紙の発信や依頼事項が遅れたこともあった ・コロナ禍、懇談会の開き方の工夫をして実施してほしかった